

生駒市農業ビジョン推進懇話会 第9回会議録 (要点筆記)

- 1 開催日時 平成30年1月30日(火) 午前9時30分～午前10時40分
- 2 開催場所 生駒市役所 4階大会議室
- 3 参加者 相川氏 池上氏(座長) 石丸氏 井上氏(副座長) 上武氏 高枝氏 田中氏 樽井氏
中世古氏 中田氏 中村氏 松井氏 (五十音順)
- (事務局) 岡田経済振興課長 巽経済振興課長補佐 高橋農林係長 長田農林係員

4 会議の公開・非公開 公開 傍聴人数 なし

- 5 議題 (1)「農家アンケート調査」の実施について
(2)平成29年～30年度のスケジュールについて
(3)その他

6 審議内容

(1)「農家アンケート調査」の実施について

座長 アンケートは2月5日発送予定のため大幅な修正は難しいが、回答する立場として、表現が分かりにくいから変えた方が良くないなど意見があれば出してほしい。

参加者 農家台帳に基づいて発送するということだが、台帳記載の宛名の人が対象ということか。

事務局 農家台帳に記載されている世帯代表をもとに発送する。主に農業に従事している人に回答していただきたいと考えている。

参加者 問7で10年後の農業経営について聞いているが、高齢であるためどうなっているか分からない。「10年後」という先の話ではなく、「今後」にしてくれたら回答できる。

座長 世帯代表に発送するということだが、農地の登記では何年も更新されず放置されているということがよくあるが、台帳は更新されているのか。

事務局 更新されている。

座長 地産地消の取組に関する問で、取り組んでいない場合回答する問12と問16の間がとんでしまうことから、順番を入れ替えた方が良い。問12を15に持ってくる。
アンケートに直接関係はないが、生産緑地の面積はどのくらいあるのか。30年経過して、指定解除の場合は買い取り申出することができるが、生産緑地法の改正で、生産緑地は今まで自分で耕作しなければ税の優遇措置はなかったが、担い手などに貸し付けることができるようになる。貸しても相続税は猶予されるようになる。買い取りだけではなく、貸し付けできるという選択肢があるということを知ってほしい。生産緑地をどうするかまで調査したいのであれば、備考に一言貸し付けることも可能ですなど入れてはどうか。

事務局 今回の法改正を通るとそのようになる。細かい調査は担当課が改めて行う予定であるが、貸付の制度もできる見込みであるという一文を入れるかどうか検討する。
市内の生産緑地は少し前の数値になるが、42ha、260ヶ所程度である。

参加者 問4で耕作をしていない農地を認識しているかの質問について、農業委員会でも意向調査を所有者にしている。今回のアンケート結果との整合はとれるのか。今後このアンケートをどう活用していくのか。

事務局 アンケートをすることにより、農家の方の意向を把握して農業ビジョンの更新や農業政策に活かしたい。

参加者 アンケートを受けた方の農地の認識と農林業センサスの農地と実際耕作されている農地との差が出てくるのではないか。

事務局 農林業センサスは答えてくれた方の考えによるし、農業委員会で行った実態調査も少し前の状況をもとに調査している。
個人個人の考えが出てくるとは思うが、農地の状況を把握しつつ数値を近づけていきたい。アンケートの活用について、氏名を記入してもらうため、農業したい人とのマッチング作業の助けにしたいとも考えている。

座長 アンケートを分析するだけではなく、担い手に活かすという二重の目的がある。そのために個人を特定することが必要になる。名前を記入することに抵抗のある方もいらっしゃるだろうから、分析としては無記名で扱うという旨を一筆入れたらどうか。

参加者 耕作をしていない農地とは、地目が田だが現在竹藪や山になっている農地も含むのか。

座長 登記の地目で考えるより、自分で農地として把握しているおおよその面積で良いのではないか。
問 10 について、こういう対策があれば農業が続けられる、地産地消が進むという意見があるか。

参加者 問 3 の耕作している面積とは、実際自分が耕作している面積のことか。貸して耕作してもらっている面積も含むのか。貸して耕作してもらっている人と借りて耕作している人、どちらも耕作していると回答したら、重なりが出てくるのではないか。

座長 表現は悩んだ。市内全体でどのくらい耕作されているかを把握したい。あまり細かく聞いて回答が少なくなるのもどうかと思う。多少重なりが出て、仕方がない。農家の方が自分で耕作していると考えるかどうかは、個々人の考え方にまかすということで良いのではないか。
問 4 を耕作していない農地はありますかではなく、遊休農地はありますかという表現にした方が分かりやすい。
他に質問はないか。農業委員会などの数値とずれてくるとは思うが、意向の調査を主にしたい。一般的なアンケートの回収率は 3 割程度だが、5 割ほど返ってきてほしい。

(2) 平成 29 年～30 年度のスケジュールについて

座長 ご意見・ご質問はあるか。来年度の先進地視察研修先について、日帰りで行けるところで生駒にとって役立つような良い場所を考えていただきたい。ビジョンの更新も大幅な変更はないとの事務局の見解だが、強化した方がよい点や、社会情勢など踏まえた変更点など、意見をもらいたい。

参加者 アンケートを今から行って、結果を 3 月末に報告するなどスケジュールがきつくないか。

座長 若干きつそうだ。ビジョンの更新についても、多少 9 月の確定予定がずれこむ可能性もあると思う。

(3) その他

座長 折角の機会なので、意見交換会を行いたい。

参加者 自然災害など予期しないことが起こる。復旧は個人や地元負担が大きく、農業共済保険だけではまかないきれないため、市からの補助金を増やしてほしい。また鳥獣害対策にも力を入れてほしい。

参加者 近隣市町村では、農協女性部が農作物を生産したりと活躍していると感じる。

参加者 当懇話会には、これから農業をしていく若い人の参加が必要であると思う。

参加者 今年学校給食へのさつまいもの出荷を試みたが、出荷基準が厳しいと感じた。基準をゆるくして生駒産の野菜を積極的に取り入れてほしい。スーパーでの販売も、通年出荷できないことから販売先を確保することが難しい。売りやすい場所ができれば良い。

座長 新規就農者への販売先の確保は重要である。

副座長 農業振興協議会のいずれかの部会に入ったら、年5回の青空市場や毎月のベルテラスへの出荷ができる。また、さつまいもとして販売するだけではなく、加工するということも検討したらどうか。

事務局 次回の懇話会の開催は、3月下旬頃を予定している。